

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長氏名	沖野 稔則	生徒指導主事氏名	瀬尾 啓子
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『異学年読み聞かせ活動』

取組のねらい『キーワード：自己有用感を高める』

- ・ 低学年に読み聞かせを行うために、本選び・練習など責任をもってやりきらせることで、高学年児童の自己有用感を高める。
- ・ 読み聞かせを通して異学年の交流を深める。

取組の具体的内容『キーワード：関わり合い』

- ・ 6年生→1年生，5年生→3年生，4年生→2年生に，読み聞かせを行う。
- ・ 高学年は，学級内で4人程度ずつのグループをつかって活動する。
- ・ 高学年は，グループで事前に本を選び，読み聞かせの練習をする。（各学級で記録をとり，同じ絵本にならないように留意する。）
- ・ 毎月1回（原則第3金曜日）の朝読の時間に，高学年の各学級から1グループずつが，指定している低学年の教室に出向いて実施。（1回10分以内）・ 低学年は，聴く態度に気をつける。



取組の課題・創意工夫『キーワード：(高)達成感 (低)感謝』

- ・ 他の活動（入学式，年度当初の掃除や給食準備の手伝い，春の遠足，体力テストなど）で交流することの多い6年生・1年生をペア学年にし，さらに交流を深めるようにしている。
- ・ 高学年は，グループで話し合っ本を選ぶ時間や練習する時間を確保する。練習は，朝読や休憩の時間を活用し，役割分担や読み方の工夫をお互いにアドバイスしながら仕上げさせていく。
- ・ 低学年は，読み聞かせが終わったら，高学年に拍手したり，感想やお礼を言ったりすることで感謝の気持ちを伝えるようにする。

< 6年生の日記より >

ぼくは，読み聞かせをして思ったことが2つあります。

1つ目は，グループのみんなと練習したことについてです。

最初は，いやだなと思っていましたが，どの本がいいかなあと思っているうちに楽しくなってきたので，やろうという気持ちになりました。みんなと一生懸命練習して本番にのぞんだことで，読み聞かせが終わると，前よりも仲良くなれたかなあと思いました。

2つ目は，1年生に喜んでもらったことです。

グループのみんなが本を読んでいるときは，すごく静かに聞いてくれて，それだけでもうれしかったのに，さらにお礼も言ってもらったので，とってもうれしかったです。

取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- ・ 高学年は、相手意識をもって、本選びや役割読みの練習をしている。練習の際は、どのように読んだら低学年に分かりやすいかを考え、互いにアドバイスをし合っている。
- ・ 低学年は、読み聞かせのとき、一生懸命聴いている。また、高学年の読み聞かせの姿を見て、あこがれの気持ちを抱く児童もいる。

<1年生の感想より>

いままでいろいろな本をよんでくれてありがとうございました。おもしろい本もあったし、すこしふしぎな本もありました。

わたしは、よみきかせがある日をたのしみにしています。わくわくします。その日のあさは、れんらくちょうをかくのをはやくおわらせます。

6年生が本をよんでくれたとき、ほんわかします。わたしも、はやく6年生になりたいです。

- ・ 4年生は、総合的な学習の時間の取組でも、自主的に「絵本読み聞かせ隊」をつくり、読み聞かせを行っていた。
- ・ 他の取組とも合わせ、特に、高学年の自己有用感が高まった。
(6年生児童アンケート：9月58%→1月73%)

<6年生の日記より>

私たちのグループは、10月16日に、1年1組に行きました。

私が気をつけたのは、1年生に聞こえる声でゆっくり読むことと、1年生の顔を見ながら読むことです。特に、私は、よく早口だと言われるので、ゆっくり読むことを意識しました。

1年生の教室に入る前は、少し緊張していました。失敗したり、焦って早口になったりしないか、不安になりました。でも、読み始めると1年生のみんなが真剣に本の絵を見て話を聞いてくれるのが分かって嬉しかったし、少し安心しました。

読み終えてから、1年生が嬉しそうにお礼を言ってくれたのを見て、とても嬉しかったです。

異学年読み聞かせが始まって、本当に良かったな、と思いました。

今後の展開『キーワード：継続・創意工夫』

- ・ 2月の最後の異学年読み聞かせが終わった後、低学年全員がお礼の言葉などをミニカードに書き、高学年に渡して感謝の気持ちを伝える。
- ・ 3月のあいさつ運動では、異学年読み聞かせの学級がペアとなり、一緒に行く。

<6年生の日記より>

ぼくは、読み聞かせをして心に残っているのは、1年生がすごく真剣に本を聞いてくれたことです。ぼくは、始めはすごく緊張していて、言葉などをまちがえるかもしれないなど、いろいろなことを思っていたけど、1年生は、ぼくたちが読んでいるのをすごく真剣に聞いてくれたので、少し緊張がなくなりました。

今度は、本を通してではなく、他のことでも交流ができればいいなと思いました。

他校へのアドバイス『キーワード：点から線へ』

- ・ 読み聞かせを行う学年や学級のペアは、その場限りではなく、様々な他の活動とも連動させていくと、さらに交流が深められると思われる。